

-ものの彷徨いの物語-

形を決める遷移について考える。一般に私たちが手を加えてあげれば、ものや記号は形が変わってくれます。しかし私たちが手を加えていないその間にも、ものや記号自身は自らの体裁を求めて宙を彷徨っていると思うのです。

私たちが能動的にものや記号にルール（関係性）を見出す時、広がりを考えます。それが何で構成されているか、それが何を構成できるか、質の関係性の広がりがまず一つ。

ものがあることで事後に何が起るか、以前に何があったのか、時間的な関係性のレンジがまた一つ。

そのような幾つかの広がりから、私たちはルール（関係性）を選び取ります。そして恣意的に関係の磁場を作ることで、時間と意味が生まれてくれます。

この、時間を対象に意識できる前後の発生を、私はフィクションだと捉えています。ものともとのルール（関係性）のみにはまだ時間が伴いません。関係性が関係を持つことでやっと時間が現れてくれます。

これらの関係性を求めての彷徨いを、私たちだけがやっているわけではないはずで、もの達が如何にして自らの関係の発生のために彷徨っているのか？その一端を描写することが、私の制作の大きな目的のひとつです。